平成23年度東北ブロッククラブミーティング２０１１開催報告

日時：［第1日目］平成23年11月26日（土）13:00～17:00
　　［第2日目］平成23年11月27日（日）13:00～17:00
会場：「山形ビッグウィング」　〒990-0076 山形市平久保100番地
内容：

［1日目］

(1) 開会プログラム
(2) ［報告］震災と総合型クラブ
(3) ［基調講演］復興に向けた総合型地域スポーツクラブの方向について
(4) ［ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ］

A　会員確保　　C　プログラム
B　連携協力　　D　財源確保

［2日目］

(1) 開会プログラム
(2) ［報告］震災と総合型クラブ
(3) ［発表］震災から学んだコト
(4) ［ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ］テーマ未定

A　リスクマネジメント　　H　プログラム①
B　法人化　　I　指導者
C　人材①　　J　プログラム②
D　会員　　K　地域
E　人材②　　L　交流
F　運営　　M　高齢者
G　財源　　N　連携

【概要】

創設支援クラブ関係者等を対象に、総合型クラブ設立準備に必要な情報や具体的な取組み内容を提供し、総合型クラブ設立に向けた活動に役立て先進クラブ関係者からの情報提供等により、クラブ関係者が抱える諸課題を明らかにし、問題解決の糸口を探るための情報の共有化とクラブ育成支援のためのネットワークの強化を図るとともに、ブロック内交流活動等を通じて、クラブ間の交流並びに各都道府県総合型クラブ連絡協議会間の連携・協力体制をより一層促進することを図った。

また、東北ブロック内におけるこのたびの東日本大震災によってどの人も「クラブのあり方」「クラブとは」と考え直すひとつのきっかけになり、以下のテーマを念頭に置きブロックミーティングを実施した。

●クラブの育成･運営にも触れながら改めて震災後の総合型地域スポーツクラブの意味を考える。
●震災から学んだ事をそれぞれの立場からテーマ・課題を出し合う。

【討議内容】

［1 日目］

【［報告］震災と総合型クラブ】

報告者：東北ブロック各県クラブ育成アドバイザー（6 名）

東北６県の各クラブ育成アドバイザーより、各県における東日本大震災の影響、並びに震災後の総合型地域スポーツクラブの活動や育成状況の報告を行った。

【［基調講演］復興に向けた総合型地域スポーツクラブの方向について】

講師：岩手大学 人文社会科学部　教授　浅沼 道成　氏

東北ブロック地方企画班の班長でもある同氏より、スポーツにおける震災復興の現状やその取り組みについて触れながら、「スポーツの力」の再確認・再発見をしたことが述べられた。その力は、地域コミュニティの復興に向けた大きなきっかけ、その基盤になり、益々、総合型地域スポーツクラブという理念やそのシステムが地域づくりに有効であるとまとめた。

【［ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ］】

４つのテーマに分かれてディスカッションが行われ、以下のような意見が出された。

１．会員確保

・会員を確保するために、プログラムの充実が必要。

・参加する側からすれば、会費は安い方が参加しやすいが、しかし他方、安くすればクラブ運営が危うくなる。

・クラブ運営も重要であるが、会員にとってはスポーツ教室の方が重要。

・会費を徴収して運営しているため、会計を明瞭にすべき。

２．連携協力

・清掃センターと連携し広場の清掃を実施したり、使用されていないゲートボール場の草刈りを町と連携し実施した事例等の紹介があった。

・活動の場を広げていくためにも様々な施設との連携が重要。

・活動拠点がないため、アウトドア（ウォーキングやグラウンドゴルフ）をメインに実施している。

３．プログラム

・「世代にあった魅力的なプログラムとは？」について議論。
・20 代から 30 代の参加確保が難しい。
・文化活動とのドッキング。
・3 世代が一緒にプレー出来るプログラム。
・健康志向のプログラムを組み立ててみては。

４．財源確保

・「会費の決定方法は？」について議論。
・年齢層を把握し、どの年齢層が多いのかで会費金額の設定を判断しては。
・5 年後（助成終了後）に、クラブ経営を継続出来る会費に設定すべき。
・町（行政）と連携をし、必要な支援を模索していくことも重要。
・人口を考えて身の丈に合ったクラブ経営を。

［2 日目］

【［報告］震災と総合型クラブ】

報告者：東北ブロック各県クラブ育成アドバイザー（6 名）

1 日目と同様に、東北 6 県の各クラブ育成アドバイザーより、各県における東日本大震災の影響、並びに震災後の総合型地域スポーツクラブの活動や育成状況の報告を行った。

【［発表］震災から学んだコト】

福島県クラブ育成アドバイザーの海老根慧氏、宮城県石巻スポーツ振興サポートセンター理事長の村松善行氏、岩手県唐丹すぽこんクラブ会長代行の下村恵寿氏から、それぞれ震災後のスポーツ活動や総合型地域スポーツクラブの現状をお話しいただき、その中で感じてきたことについて率直な意見や今後の思いを語っていただいた。大変重みのあるお話であり、今後の総合型地域スポーツクラブの進むべき方向に示唆をいただいた。

【［ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ］】

14 のテーマに分かれてディスカッションが行われ、以下のような意見が出された。

１．リスクマネジメント

・災害時の連絡方法（防災無線、ミニ FM）の準備・確保。

・教室、イベントの雨天中止時は、ブログへ情報を掲載、更新。

・活動中のリスク低減：高齢者の会員がウォーキング中に骨折→月に 1 度の骨密度検査を実施。

・赤字種目をやめることができない…。

・会費の集め方で現金を取り扱う際のリスク：コンビニでの振込等を検討。

・種目の時間帯を変えると参加者数 UP。

２．法人化

・今後のクラブの方向性をしっかり持つ→クラブのミッションの確認。

・手続きの不安：toto 助成レベルの事務手続きができていれば、法人化の事務手続きはクリアできる。また、各県の NPO センターなどを活用。

・指定管理→NPO 法人→運営が安定

・法人化：一般法人の方が手続きが簡易、寄付を受けやすい認定 NPO の活用。

・リスクマネジメント

３．人材①

・「人材」は「人財」であるという認識で重視。

・必要に応じた目的（役割）の明確化（支える、指導する）。

・確保に資する組織（体協、スポ少、スポーツ推進委員、サークルなど）。

・地域人材の調査、登録。

・クラブの財源により、必要最低限の人材を確保している。
→クラブ経営により差がある

・クラブの理念、実情に応じた人材の配置を大切にしている。

・クラブの人材はクラブの存続を左右する。
→資質の向上、研修・養成・発掘などクラブ運営上重要であることを再認識した。

４．人材②

・スポーツ教室の指導者はクラブ内、特別な場合は地域内から確保する。

・仲間、住民主導のクラブには、他団体との確執はない。

・教委、体協、総合型クラブが一緒の事務局内にあり、すみわけができていない。

・スポーツ振興くじ助成を終えた後の資金確保。

・体育施設の指定管理を受けている第 3 セクターで総合型クラブ事業を展開。

・運営委員に名を連ねているが、実際にはクラブ運営や現場の内容を全く分かっていない。

・NPO 法人格のメリット・デメリット→法人格の取得を検討している。

５．会員

・スポーツクラブとして会員はなくてはならない。

（会員とは何か？会費を払ってくれる人？会員を集めるための工夫は…）

→会員のニーズを把握しているか？モチベーションを上げるために必要なことは？

・会員に喜ばれるには？→ニーズの把握、会員と指導者の繋がり、楽しんでもらうのが一番。

・活動場所や会員が集まる場が必要（拠点があれば会員が増えるかも）。

・年齢層による空洞化。

・子育てを離れた指導者を巻き込む、プログラムを充実させる。

６．運営

・課題

①toto 助成金が終わった後の資金源（財源確保）。

②会費を出してスポーツクラブに入るためには“意識づくり”。

③会員にはなったが、教室・イベントを開催すると参加者が少ない。

④魅力ある事業、参加者にあったものを考えるためにはどうしたらいいか。

⑤行政の事業の業務委託はどのようにしたらよいか。

⑥指導者の確保

→上記の課題について、どのように改善していけばよいか。すべてを改善することは難しいが一つずつ出来ることから、地域に合った方法が必ずあるはず。

７．財源

・会費の設定をどのようにするか？

→財源の種類？→行政との連携に伴う財源→企業との連携による財源

→クラブの事業の幅を広げることによる新たな財源

・どのような役割を果たすためには、どのくらいの財源が必要なのか。

・各々の役割を持続的に果たすために必要な財源（収支）を明確にする。

・確保の方法は様々ある。

８．プログラム①

・面白いプログラム→ボクシング、綱渡りなど

・現在の悩み事は？→クラブ関係者（指導者、クラブマネジャー等）の謝金を支払い続けられるか。プログラムが増えると対応・仕事量が煩雑になる。

→クラブマネジャーに仕事が偏る。

・年代、性別により会員が偏っておりそれを埋めたい。

・組織の成り立ち、運営方法はクラブによって様々だが、プログラムの開発には試行錯誤が伴うため、まずはクラブ運営の安定が必要。

・クラブマネジャーは知恵を出すのが楽しみ、やりがいのある仕事である。やる気と知恵がある限り仕事がきつくても頑張れる。

９．プログラム②

・2 か月ごとに事業予定を記したカレンダーを作成し全戸配布。（農繁期は活動中止）

・指導者はいるが参加者がいない。公民館等の事業（無料）との関係。

・子供たちはスポ少で競技スポーツに特化している。

・底辺拡大のためには、学校の協力が必要。

・ニーズに合致する曜日の設定、施設の確保の難しさ。

・子供のプログラムの間に、保護者にはヨガをやってもらう。
（会場確保がうまくいけば時間が有効につかえる）
・健康福祉課など（行政）から委託を受けて、体操教室や出前教室をやってみたい。
・学校での運動習慣をつけるために手伝いたいが、学校数が多くてなかなか出来ない。
・自然の中でのお出かけ、ウォーキングなど、地元を出てみる。
・ニーズを知るために、クラブへ来てくれない人たちにアンケートを実施。

10. 指導者

・指導者に関する「発掘」、「確保」、「育成」、「行政との連携」。
・指導者の資格、指導の内容→研修、遊び（コーディネーション）
・情報が欲しい→高齢者の運動への関心。（ex グラウンドゴルフ…人に会いに来る）
・広報→学校との連携、チラシは見てくれているが…。
・ホームページの管理→会員がやっている
・参加者の声→懇親会、旅行など普段と違う場で生の声を聞く
・指導者不足→クラブの組織、他団体との関係が影響している、調整し協力体制の構築。

11. 地域

① 地域にとって必要な総合型クラブになるためには？
・地域住民に総合型クラブの意義を浸透させる。
→根気強くメリットを説明、地域の中心人物の理解を得る、行政と良好な関係の構築。
② 地域の課題を解決するための総合型クラブの役割
・スポーツ基本法の制定等により、新しい公共の受け皿として、またコミュニティづくりの主役として総合型クラブの役割が重要になってくる。

12. 交流

① 交流を深めるには
・クラブ内→地域内クラブ→県内クラブ→東北・全国を輪に拡大
・楽しみ（飲み会等の企画）。
・会員以外への取り組み→口コミ→会員拡大（地域貢献、住民への PR）

② 東北ブロッククラブミーティングのあり方
・日程の工夫
（1 泊 2 日にして自由に交流する時間を確保し、他クラブや講師の先生方に色々相談したい）
・創設、自立、連絡協議会が、一堂に会しても良いのではないか？

13. 高齢者

・人気のプログラム：レクダンス、ボクササイズ、ナイトウォーク＆スポーツ
ウォームアップ、クールダウンだけ一緒に行って、活動はそれぞれの種目を楽しむ。
・高齢者は要求が細かく高いことが多い。（従前は行政がやってくれた）
→常にやってあげては、うまくいかない。（役割を与える）
・他の年齢層以上にリスクマネジメントを考える必要（保険の加入、日頃から様子を見る）

14. 連携

課題
・クラブハウスの建設→敷地、助成金がない

・NPO との連携、知名度を上げたい→自分たちのクラブだけではダメ
・クラブ共催イベント→報道、行政への情報提供
・認知度を高めるために目立つ活動をする。
・ヨコのつながりが大切。
・行政との連携、協力は必要。
・3 か月に 1 度アンケートを実施、高齢者対象の事業は午前中が良い。
・参加者は「お客さん」という意識であり、「会員」という意識がない。

【まとめ】

今回のブロックミーティングを含む平成 23 年度の日本体育協会の各種事業では、東日本大震災復興支援として「とどけよう　スポーツの力を東北へ！」というテーマを掲げていただき、その思いを受け止め復興の地である東北として、「何を研修のテーマに、どの方向に向けていこうか」と、かなりの議論を行いました。その中で、「復興」をキーワードに改めて自分たちの現状を見つめ直し、逆にそれを力にしようという機運が高まり今回の実施内容としました。

結果として研修を終えて、このミーティングで得られた情報が今後の総合型地域スポーツクラブの育成の意義やその方向性について、多少でも参加者の中で共有できたことが最大の成果であったと感じています。

（報告：東北ブロック地方企画班長　浅沼 道成）